

中道百景年記

百景堂



庫文閣内	
五	三
和書	

内閣文庫	
番號	和 32567
冊數	92 (74)
函號	152 122

中流万寿年記

百接堂

庫	文	内
五	三	和
		書

天保二年正月御覽

天保二年正月御覽

一 正月申日江總式書海軍

正月御覽

一 内府様渡 御成之事

同月御覽

一 右衛門院様書面御成之事

同月御覽

同月御覽

一 同月御成之事

同月御覽

一 同月御成之事

同月御覽

一 同月御成之事

同月御覽

一 因以舟送河邊西九 淨辰寺 正月四日

一 因以舟栲同宇舍之用事 同月四日

一 松平越前守向金浦之儀舟以同舟

送書之事

同月十日

一 法具屋匠役後由海舟事

同月十日

一 紅葉山 送河邊

大納言様河邊請之事

同月十日

一 大久保町書寫殿見送河邊舟津御船之事

同月十日

一 文姫若板舟事始之事

同月十日

一 大納言様河邊請之事

同月十日

一 森川屋書寫殿仙石丹波守後河邊

淨免具津御船之事

同月十六日

一 水戸宰相殿方献占御之事

同月十日

一 盛姫若板舟事始之事

同月十八日

一 増上寺津札舟事始之事

同月十日

一 池田早瀬書寫大久保上野分司御免具

作舟之事

同月十九日

一 松平幕末為儀之儀以 舟舟事

同月十日

一 東九方舟御増上寺 舟舟請之儀以

同舟之儀舟以舟舟送書之事

同月十日

- 一 采女官於增上寺被為有月有達書可正月廿日
- 一 同月有初願山一園因後有月有達書之事
- 一 增上寺被為有場所引後之後
- 一 同月有達書之事
- 一 台徳院様法蓮寺有達書御便之事
- 一 同月有被勅書有月有達書之事
- 一 同月有法蓮寺御所法蓮寺有達書之事
- 一 同月有法蓮寺御所有方丈並出家中後之事
- 一 同月有旨

- 一 同月有松平初書有御洋領之事
- 一 同月有秋上初書長院後有達書之事
- 一 同月有二月十日後出之事
- 一 同月有若柳口年始之事
- 一 同月有限帳後有月有達書之事
- 一 同月有保加書有御日光寺御府之事
- 一 同月有見初上之事
- 一 同月有法蓮寺御所御板中移大補内為年人心
- 一 同月有御領之事
- 一 同月有御樣初場也進名物有御織羅之事
- 一 同月有日

- 一 魏子振 後口月建書之事 二月十二日
- 一 因以丹敷口魏子 清定書進上事 同月十日
- 一 榮壽院柳口年始之事 同月五日
- 一 北山澤右馬廼治書初稿之事 同月六日
- 一 賜場御進書物之事 同月十日
- 一 雛形須人抄後月口月建書事 同月七日
- 一 高木與之師外口後後後月口書事 同月九日
- 一 内府様本口月建書 清成有之事 同月十日
- 一 右徳院様清雲口後後出本口書事 同月十日
- 一 寺口始之外口書事 同月十日

- 一 小林好孝 齋藤氏古齋 編集書務之事 同月十日
- 一 江口 行竹之事 同月十日
- 一 歩以智子 姓在齋 智子入教書口月建書 同月十日
- 一 齋口之事 同月十日
- 一 内府様演 清成有之事 同月十八日
- 一 賜場御進書物 有落目之事 馬谷之事 同月十日
- 一 江口 行竹之事 同月十日
- 一 極中 齋之事 清見山 齋進 小澤 齋之事 同月十日
- 一 内府 齋之事 同月十日
- 一 唐和抄 齋之事 齋之事 同月十日

- 一 東海道唐人島屋錢刻合書券一奉 二月廿八日
- 一 唐和書院書院書券一奉 二月廿八日
- 一 唐和書院書院書券一奉 二月廿八日
- 一 唐和書院書院書券一奉 二月廿八日
- 一 唐和書院書院書券一奉 二月廿八日
- 一 唐和書院書院書券一奉 二月廿八日
- 一 唐和書院書院書券一奉 二月廿八日
- 一 唐和書院書院書券一奉 二月廿八日
- 一 唐和書院書院書券一奉 二月廿八日
- 一 唐和書院書院書券一奉 二月廿八日

- 一 追島將言後見之者行根難用者同月十八日
- 一 卷始者類 初之由致 暁始者類 同月十九日
- 一 法卷江 信出公奉 同月十九日
- 一 中山道人馬屋錢刻合書券一奉 同月廿一日
- 一 卷始者類 初之由致 暁始者類 同月廿一日
- 一 追島將言後見之者行根難用者同月十八日
- 一 卷始者類 初之由致 暁始者類 同月十九日
- 一 中山道人馬屋錢刻合書券一奉 同月廿一日
- 一 卷始者類 初之由致 暁始者類 同月廿一日
- 一 追島將言後見之者行根難用者同月十八日
- 一 卷始者類 初之由致 暁始者類 同月十九日
- 一 中山道人馬屋錢刻合書券一奉 同月廿一日
- 一 卷始者類 初之由致 暁始者類 同月廿一日
- 一 追島將言後見之者行根難用者同月十八日
- 一 卷始者類 初之由致 暁始者類 同月十九日
- 一 中山道人馬屋錢刻合書券一奉 同月廿一日
- 一 卷始者類 初之由致 暁始者類 同月廿一日

長久保江守伊波の事

三月廿九日

一 鈴木九郎重隆の事 江戸幕 三月廿九日

一 進言の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

江戸幕の事

三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 江戸幕の事 江戸幕 三月廿九日

一 松平於義丸大奥宅 城事 同月廿六日

一 浅井若狭山事始事 同月廿日

一 追鳥將立同日始事 同月廿日

一 同日 同日始事 同月廿日

一 有之建之事 同月廿日

一 小石川信通院坊上等信藏事 同月廿日

一 歩仍留事 同月廿日

一 明後事七日始事 同月廿日

一 同日 同日始事 同月廿日

一 同日 同日始事 同月廿日

一 降事 同日廿六日

一 當六月廿日始事 同月廿七日

一 和事 同日廿八日

一 出外事 同日廿八日

一 和事 同日廿八日

一 入事 同日廿八日

一 依事 同月二日

一 和事 同月二日

一 和事 同月二日

一 和事 同月八日

一 内府様御渡書御 御成之事 同月十六日

一 御成中御進之御成書御 入付御成 同月十日

一 達之事 同月十日

一 御成中御渡書御 御入付御成御成 同月十七日

一 達之事 同月十七日

一 有若山方御成御成書御 御成書御 同月十八日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十九日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十九日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十九日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十九日

一 内府様御渡書御 御成書御 御成書御 同月十日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十日

一 御成御成書御 御成書御 御成書御 同月十日

一 去年正卿心傑雄帝台川清帝命

山月竹之在事

五月廿六日

一 内府様申付御 清成之事

同月廿七日

一 以先子松浦忠右衛門以役清成之事

同月廿八日

一 同部上総守幸社奉以役女 信守之事

同月廿九日

一 以先子奥山主税少左衛門之事

同月廿九日

一 松平九右衛門松平河右衛門之事

同月廿九日

一 丹保掃部以清成之事

同月廿九日

一 松平九右衛門松平河右衛門之事

同月廿九日

一 松平九右衛門松平河右衛門之事

同月廿九日

一 水原通貞自下在清成之事

同月廿九日

一 岩田通有在清成之事

同月廿九日

一 松平九右衛門松平河右衛門之事

同月廿九日

一 作海之事

同月廿九日

一 古河洞古用下在清成之事

七月廿九日

一 中山通平助入馬兵衛判官在清成之事

同月三十日

一 松平九右衛門松平河右衛門之事

同月三十日

一 天地九右衛門清成之事

同月九日

一 貞信院様以清成之事

同月十日

一 松平九右衛門松平河右衛門之事

同月十日

- 一 四廣様大川御 清成之事 七月十六日
- 一 村垣與之右御新親王 正親之事 同月十八日
- 一 貞徳院様御牌前 清成之事 同月廿日
- 一 右川清成御口御後後有御書付之事 同月廿七日
- 一 四廣様中川御清成御上覧之事 八月二日
- 一 源谷十右衛門主部所御之事 同月八日
- 一 水泳古勅著御領御之事 同月九日
- 一 和漏丹後之友
- 一 大納言様御例御用御事 同月十日
- 一 楊柳御書御編集書稿之事 同月十日

江作御事

同月十日

- 一 岩崎院様御領御事 清入之言御事 同月十日
- 一 人形達書之事 同月十日
- 一 松平伊豆守御領御事 同月十日
- 一 西丸御分帳小御用御事 同月十七日
- 一 村瀬守御領御事 同月廿日
- 一 濱姫御領御事 同月廿日
- 一 小笠原守御領御事 同月廿日
- 一 文姫御領御事 同月廿日
- 一 水鏡御領御事 同月廿日

- 一 松平因防身殿沈田曾婦子江 江分年 八月廿六日
- 一 改家自具年相用了万外及以書付年 同月廿七日
- 一 甲府福昌院初化 清光内書付年 同月廿九日
- 一 内府様以福非 清成有清馬姓名
相織雛形年 同月晦日
- 一 松平伯耆守殿河府 清月自入年 九月二日
- 一 盛治若柳西九清年始年 同月二日
- 一 溶治若柳西九清年始年 同月六日
- 一 石河教馬西九清年始年 同月十日
- 一 有若口方以十有口出省遠書年 同月十日

- 一 同月廿六日 同月廿六日
- 一 松平助之出立及清馬江作後年 同月廿日
- 一 卷治若柳江縁組有口出年 清信年 同月廿日
- 一 同月松平滅師江江後年 同月廿日
- 一 同月江之家方 清對顔年 同月廿日
- 一 同月有來年廿七日惠和信年 同月廿日
- 一 荒川去坊与清領相年 同月十九日
- 一 尚方江信紙出年 同月廿日
- 一 需京年十節之外江信與年 同月廿六日
- 一 山代美将江志清江味江遠書年 同月廿七日

一 恭姫若狭口縁組有想知之事 九月廿七日

一 水野出羽守教洋領事之事 同月廿八日

一 恭姫若狭口縁組有紀伊殿口縁組之事

一 仰上之事 十月二日

一 日府様上野無 沛至至 沛至沛至

一 悉方口迄之事 同月八日

一 玄指口迄之事 同月九日

一 水野若狭口迄之事 仰上之事 同月十日

一 古令限口迄之事 仰上之事 同月十日

一 有名口方口迄之事 同月十日

一 切至丹室改裁 大月廿日 同月廿七日

一 口迄口迄姓名口迄之事 同月廿九日

一 上迄國妙首院勅化 沛先口迄之事 同月晦日

一 松若志麻口迄之事 仰上之事 同月晦日

一 古川口迄之事 沛先之事 十月朔日

一 日府様湯射 上野 沛先之事 同月二日

一 口迄口迄大月廿日 同月五日

一 小口迄口迄之事 同月十日

一 日府様湯射 沛先之事 同月六日

一 坊上寺焼去後口迄之事 同月十日

- 一 在方出役代り以月四日付違事 十月六日
- 一 松平志摩守与上令付洋領事 同月九日
- 一 系讀山吟味付違事 同月九日
- 一 貸附候月所取外以違事 同月七日
- 一 常言布衣以 候付者有令事 同月十日
- 一 松平誠之助之服并洋領事 同月十日
- 一 松平誠之助之婚死令付 同月十日
- 一 水野若女口藏禮文出令事 同月十日
- 一 名主之守節完口候而文取令事 同月十日
- 一 西丸口附之者 同月十日

- 一 水野若女口藏禮文出令事 同月十日
- 一 見道中商人馬場沙利指事 同月十日
- 一 上野火燒付 同月十日
- 一 本永三年候洋領事 同月九日
- 一 智吉市之入屋者通接付 同月九日
- 一 尾浩殿別荘仕酒并河内 同月九日
- 一 小笠原孫七前口候事 同月二日
- 一 松平誠之助洋領事 同月二日
- 一 上野候洋領事 同月二日
- 一 湯原情院訃化 同月二日

- 一 諸國熱のる個の書付之事 同月十日
- 一 只代官池田仙九郎の書付之事 同月十日
- 一 口高個の書付の事 同月六日
- 一 上野侯 沖位牌の書付の事 同月十日
- 一 尾港般官位の事 同月九日
- 一 明樂八重右衛門の書付の事 同月十日
- 一 水戸殿の書付の事 同月十日
- 一 赤正月上野 沖位牌の書付の事 同月十日
- 一 玉収令不納の書付の事 同月十日
- 一 系譜の書付の事 同月十日
- 一 車室の書付の事 同月十日
- 一 松平隆興の書付の事 同月十日
- 一 上野院の書付の事 同月十日
- 一 本村又助の書付の事 同月十日
- 一 杉貫の書付の事 同月十日
- 一 水野日向の書付の事 同月十日
- 一 織田信濃の書付の事 同月十日
- 一 伊豆徳作の書付の事 同月十日
- 一 指上寺の書付の事 同月十日
- 一 連書之事 同月十日

- 一 西宮定在馬口重信方征伐之事 同月廿九日
- 一 武藏 上覽見 征伐之事 同月廿六日
- 一 同月身板群者口撰之事 同月廿日
- 一 牧師任協多後果田出雲高及以附多之可 同月廿七日
- 一 藏田河海書始口存家員之事 同月廿日
- 一 丹後掃部口宅 城之口月部部 同月廿日
- 一 此書通事 同月廿日
- 一 山中仙岩口是之口力口書部事 同月廿日
- 一 高升山城書口存家員之事 同月廿日
- 一 曲洲早邊書藏田河海書始口存家員事 同月廿日

河統方義年記卷之百拾

天保二年

- 一 正月 中 諸事親式例年相跡
- 一 同日

内府様渡口倉口為 成口

同日 其初多殿口渡口月外口被口膳達

来月廿口日 諸事親式

諸事親式 諸事親式口諸事親式口諸事親式

遠河川後 諸事親式

一 諸系... 送河... 此度... 同... 日

因厨様送河... 此度...

此度...

一 一万石以下... 九万石以下... 此度...

一 外... 裏の通...

石通...

淨番...

- 一 白根拾枚... 一 同 六枚... 一 同 三枚... 一 同 肆枚... 一 同 壹枚... 一 同 肆枚... 一 同 拾枚... 一 同 拾枚... 一 同 拾枚... 一 同 拾枚...

一回 奉教

拾万石以上之藩子

一 奉万石以上之藩遠近に御法事之旨及之奉ふ

白根奉教

以上

一同七日

於増上寺法事日割

正月

初日

初日

初日

中日

廿日

結願日

奉正月於増上寺

台徳院様式石田御法事日割

正月廿一日奉法事

衣冠部御法事

同日 奉留奉法事

奉奉奉 奉御

石之通 簡法其意奉ふて奉建奉

十二月

奉正月廿一日増上寺 御奉請奉御

還御法後日割

内府様 御奉教有之例厚々 御奉教之通

奉奉奉 四月廿一日御法事奉御奉法事

但奉向法礼儀 御奉教奉法事奉御奉法事

十二月

正月月夜指上吉淨法事申市之迄或日交各内
寄合之結句編栲同之換或之龍合或之繩掛以
類之候之了之月事

一 淨法事申市之迄或日交各内

十二月

一 同日 正月月夜指上吉淨法事申市之迄或日交各内

淨法事申市之迄或日交各内

淨法事申市之迄或日交各内

淨法事申市之迄或日交各内

室門戸致之不及有申達之候之迄或日交各内
被申之候之迄或日交各内
申之候之迄或日交各内
申之候之迄或日交各内
申之候之迄或日交各内

一 同日

公方様 内府様 出淨法具足之候之迄或日交各内

同日 正月月夜指上吉淨法事申市之迄或日交各内

正月十七日 紅羊山 淨法事

公方様 内府様 淨法事 還淨法後

大納言様 御申度方迄 御系詣

一同十四日

御申度方

御系詣

右日光寺御願 任出方 御同見

一同十六日

文姫若柳方以年迄大奥方迄為入

同日 口月付佐橋市迄門連

明後十七日紅葉山 浄宮

大納言様御系詣迄之御願方口所迄御共

一同十六日

口月付佐橋市迄門連

口月付

森川 任直

任直

口月付佐橋市迄門連

口月付

仙石丹波寺

口月付佐橋市迄門連

口月付

源井但馬寺

石段奥迄 任付

同日

御願方

水戸宰相殿

御願方

一同十八日

盛姫君様为四年始大奥入公

和泉守致江後口書付字

於坊上等淨礼席

侍従以上

伊果

诸大夫

布衣

音宿

右通下江共意公以上

埋國之内下方之事同

埋國之舞上方之事同

同下方之事同

同下方之事同

同下方之事同

正月

一同十九日

大納言様
四例元

大目書以

池田甲斐守

四例元

四小性組書以

大久保上野介

右様 清前江 侍付之

同日

松平宗茂存奉源氏以後迄年迄由勢
平定江前討之務及及平定法由緒
相列後之儀及不徒之位也 侍付之

松平兵衛次

右様向書流江縁致及在申列姓松平和智忠殿江後之

一 同日 口角付曲剛勝次所達

朱書口角坊上等

台徳院様清浄堂 清浄廟 清浄寺

文昭院様清浄法不為 入公口信不立園飯屋院
臺前門是因之後書口信或始終階也
口信了有之

一 台徳院様清浄堂 中堂 昭上廊 通達様殿切符
文昭院様清浄堂 中堂 向之元 控紙 口信 因 殿
口信了有之

同日 口角付曲剛勝次所達

朱書口角坊上等 祓物付非若書口信 或 初級
口信了有之 後口信 不立 園 飯 屋 院
臺前門是因之後書口信 或 始 終 階 也

一 同日 口角付曲剛勝次所達

朱書口角坊上等

台徳院様清浄堂 清浄廟 清浄寺 初級

外宗口信了有之

文昭院様清浄法不為 入公口信不立
清浄廟 清浄寺 清浄法不為 口信了有之 通達
初級 口信了有之

但初瀬川門是岡之嶺、掛高石、其下、山麓、草、茂、多、也、

同日 同人遊

増上寺

台徳院様浄法寺本尊木末首被褥多々、以、方、別、紙、
口書付之通、口書、江、
口書付、以、其、二、日、口書、付、場、所、
口書、付、了、同、方、丈、口書、了、了、口書、了、了、口書、了、了、

同日 西北山所法之内

空方極、
内所極、 浄法寺二組

浄法寺別院

法信若杖寺

六細様、口書

同日 牧野伊豫守

右

台徳院様浄法寺申、分、江、進、

同日 口書付、戸、極、量、法、寺、進、

増上寺

台徳院様於、浄法寺、被、褥、有、之、口書

初瀬

浄法寺

小笠原孫七郎

代、

秋元忠右衛門

初瀬川

後及依後守

伊多迫口書

魚川門

河内系守正

竹村吉右衛門

一 同日

口書付

口書付、
口書付、 浄法寺

浄法寺法事、本、海、江、浄、法、寺、本、尊、木、末、首、被、褥、有、之、口書、付、

口院之事 淨土之修 誠市之通 口院之事
且口院之事 及口院之事 淨土之修 誠市之通
口院之事 淨土之修 誠市之通 口院之事
口院之事 淨土之修 誠市之通 口院之事
口院之事 淨土之修 誠市之通 口院之事
口院之事 淨土之修 誠市之通 口院之事
口院之事 淨土之修 誠市之通 口院之事
口院之事 淨土之修 誠市之通 口院之事

一同方旨

松平

増上寺方丈

右者

右德院様 浄土法事 誠市之通 口院之事
出家中之 浄土之修 誠市之通 口院之事

一同方旨

時辰七

松平 和泉守

右

右德院様 浄土法事 誠市之通 口院之事
浄土之修 誠市之通 口院之事

同日 口院之事 浄土之修 誠市之通 口院之事

浄土之修 誠市之通 口院之事 浄土之修 誠市之通 口院之事

汚青紙上より年月前より青紙より年月通
心長心短心長心短心長心短

一 同月六日

常二月以後紙出令一紙令令車板百俵分長卷

一 同月七日

溶垢君板為汚年姑大奥下為入

一 同月八日 大月月初麻野に因り達

西九汚用月付方各方其以細く根帳西九斗
姓名年附之知尚即年方今年之年附以徳五
住西門町新々々々

一 二月二日

千綱一箱

大久保加有為

石曾光之屋敷の付 汚月見

同日

叶腹五

服坂中智大輝

田友之集人正

台徳院様汚法事所用書物に付

一 同日

大月月初 大月月初 大月月初

近々

内府様御為場御進言物 汚成以沙法付汚馬

江古和是江向及姓名等所織雛形且形も亦如也
江組之振元振元其方近江も亦如也

同日

内府様連名持 送河之長番以始懸口路も者
河先止江 石連江江沙汰の事

一同五日

奉書院板方西年始大奥に為入

一同六日

西九月廿二日

野山澤有馬

石組より若江院に組敷月詰物付事等々之旨於

申上同前永井肥前守殿江任候

一同七日

江月分 牧野中督 大儀に馬達

近

内府様控の場形連名持 沖藏長吉が所
江古和の姓名所織雛形且江組之人教も亦如

一五月中振元其方近江も亦如也

一同九日

江大子江

全田友七郎

信江江我亦江江後河用古和也分等々

石於江右筆事初至江縁紙水師出相も殿江任候

一日夜

口能幸也
大誠孫玄清

同日

石於瀨涌之間若年去元口能幸也

日之夜

口能幸也
高木与三郎

日二夜

口能幸也
波急之助

同日

石於燒火之間林北邊之殿

一日

口能幸也
口能幸也

一日

口能幸也

口能幸也
村垣清路

口

口能幸也
神尾信中

口能幸也

口能幸也
首根日向

口能幸也

口能幸也

口能幸也

口能幸也
明樂八重

口能幸也

口能幸也
源谷十右衛門

増上寺

右德院様御書至 浄廟向より入口修復に用事

以所記

右於美器間吳律別台山水生好等級に修復

全一板

根一板

根一板

全二板

山本十郎

徳田徳左衛門

羽夷全多信

後友一多信

中村又左衛門

根原三十郎

全同定次郎

同

根七板

日

日

日大子

全同友七郎

徳田徳左衛門

根田徳左衛門

新友多信

同日付

右於美器間吳律別台山水生好等級に修復

全一板

根本業佛

同日付

右於美器間吳律別台山水生好等級に修復

全一板

江連小市右衛門

全盛後

一〇〇

全盛後

全盛後

〇〇〇〇〇〇〇〇

石粒瀧沼同前年考元山新地坊山の田を叙せしむ

全盛後

〇〇

〇〇

〇〇

〇〇〇〇〇〇

生田大御

〇〇〇〇〇〇

足本高直

〇〇〇〇〇〇

三河口雲八郎

〇〇〇〇〇〇

持野祐清

〇〇〇〇〇〇

河野十右衛門

〇〇

尾崎三十郎

〇〇

中崎高直

〇〇

高島八左衛門

招後

〇〇

〇〇

〇〇

〇〇

〇〇

〇〇

招後

招後

〇〇

〇〇

藤原祐直

〇〇

石川九右衛門

〇招後

成沢合左衛門

〇〇

尾崎高直

〇〇

今井孫三郎

〇〇

高崎高直

〇〇

前田伊三郎

〇招後

高崎高直

〇招後

松本高直

〇〇

松田又次郎

浪拾枚

一丁

一丁

浪拾枚

浪七枚

浪拾枚

伍枚

栗原六之助

松田 孫右衛門

安西久次郎

長谷川 左衛門

橋井 武助

彼 吉左衛門

後田 孫七郎

安西 平十郎

小林 源右衛門

若野 了五

一丁

浪七枚

浪拾枚

浪三枚

一丁

一丁

乃棟梁

乃棟梁

乃棟梁

一丁

若野 伯壽

若野 梅刺

石 九 伊勢

橋井 半左衛門

伊豆 孫右衛門

早川 源右衛門

浪拾枚

石於燒火之間林此送寺殿江江流

同日

尚井棟梁乃棟梁乃棟梁

小林 好吉郎

石見代左衛門編集書指之仍了平海公

一 同十四日

^北 牧野中督及
大沢之馬及

口元江

歩行路子姓名

大田八十郎組

石河牧馬組

上野七喜若馬組

将太左京組

小野左五夫

石見通口左五夫

二月十日

口元江

^北 牧野中督及
大沢之馬及

歩行路子之組人教

組頭数人

口元江拾六人

口組人教於合組員八人 口元江拾六人

石見通口左五夫

二月十日

口元江

一 同十八日

内府様漢字尾名 成

一回亦日 内府様漢字尾名

内府様

内府様漢字尾名

内府様漢字尾名

内府様漢字尾名

内府様漢字尾名

内府様漢字尾名

内府様漢字尾名

右者

内府様漢字尾名 内府様漢字尾名

勅旨内府様漢字尾名

一回亦日 内府様漢字尾名

内府様

内府様漢字尾名

内府様漢字尾名

内府様漢字尾名

石見北前守内府様漢字尾名

石見北前守内府様漢字尾名

石見北前守内府様漢字尾名

石見北前守内府様漢字尾名

一回亦日 内府様漢字尾名

唐私持後、系種家物買持系、初相委公、尚
等、向五組、若、近、系、賣、買、と、先、端、越、通、並、其、
相、引、右、高、賣、買、の、所、人、と、向、御、取、中、申、下、り、割、の、
之、の、天、主、近、継、合、年、事、入、以、味、中、ら、成、す、
之、引、下、段、の、若、又、之、諸、所、物、持、成、と、美、合、引、尚、
亦、向、た、名、公、下、妻、子、不、抱、当、人、斗、は、は、成、成、の、中、
之、系、不、及、欠、而、妻、子、と、之、も、其、以、味、中、ら、成、
改、封、付、け、れ、之、諸、所、物、持、成、と、中、の、て、封、外、り、系、が、成、
疑、を、う、向、後、の、唐、と、今、賣、買、と、の、也、
石、通、文、化、と、友、古、觸、り、和、年、月、お、と、不、年、と、の、も

有、之、系、と、之、の、向、後、唐、紅、毛、お、た、之、諸、所、系、が、成、
先、端、の、唐、賣、買、と、後、方、口、科、と、代、官、私、取、願、と、
地、引、り、不、渡、給、う、の、觸、の、

二月

一 同亦八日

は、乃、東、海、道、越、前、石、門、宿、國、新、舟、人、馬、經、所、割、割、
の、書、付、出、也、

一 二月朔日

坊、山、河、國、の、教、後、四、月、付、所、協、を、後、
於、長、崎、唐、船、お、渡、の、賣、買、前、干、絶、越、之、後、
天、明、の、乙、年、お、觸、り、道、昔、係、今、亦、賣、買、入、お、成、

以朱為對語也之也近之語有之者乃移石任願
人上實集世後余亦為名以揚亦後之也如
近來注國出方有者是又語有人方之也
外之也對客實後以極人其有之也越古耳
不始之事也以此出方也語名極出告極密
實也語後方也石極密實後者極之也
以條之上也方之也石極密實後者極之也
法料也以此官和願之願之也

二月

一 同六日

小室系相授之殿也後以自付曲則極之節通

朱九日於西之寺院落極密樂也 任付之諸事

卷樂也 任付之節之通之也

一 同九日

今已下別法是書院

出清口向而於法極密樂也 任付之水戶殿

以之也備法且法合之高家法九也考之者而云

以之也備法且法合之高家法九也考之者而云

一 同十日

宣田之水田西九也

市橋理若也

石老表有願之通清服之也後以極密樂也

為石屋貞保之牧年之間之流もりて後公

一回十二日

口徳寺
細田小三郎由行

西九四ノ
尾崎大助由行

二五ノ
尾崎大助由行

口徳寺
尾崎大助由行

口徳寺

西九四ノ

武川 渡邊守

口徳寺

富田 之水

口徳寺

柴村 源左衛門

口徳寺

水見 新之助

石屋 清右衛門 何竹

西九四ノ

西九四ノ

可 源藏

石屋 燒火 之間 若年 寄 元 口 徳 寺 小 三 郎 源 左 衛 門 源 藏

口徳寺

一回十三日

吹上 口 徳 寺 恒 之 坐 殿 至 形 口 徳 寺

一回十四日

口徳寺 牧野 中 務 達

進 口 徳 寺

口 徳 寺 様 進 口 徳 寺 源 藏 口 徳 寺 源 藏

口 徳 寺 源 藏

一回十五日

龍山 祝 古 天 守 進 口 徳 寺

一回十六日

口 徳 寺 牧野 中 務 達

進 口 徳 寺

内府様遊幸指 沖成山沙汰有明後十八日
漆島之海に在る山麓古くより

一 同十八日 四月廿七日 物野中督達 大田島

近島指之旨あり者竹指之教は用いざらぬ

一 同十九日

恭姫若狭浄奉

浄基標浄奉

初之出敷 浄奉

暁姫若狭

浄基標浄奉

仁出公為浄飲口之家方

使者より來りて在御所之間久保の御方敷の儀

一 同廿日

此度中山道に渡る宿國新有人を御所別當に御出

一 同廿一日 参考 小室宗長に御出候月付物野中督達

恭姫若狭 初之出敷

暁姫若狭浄奉 是近口より一宮の御所へ御

出候若狭浄奉 向後御所へ御出候之通に 御出

候之出敷 暁姫若狭 浄奉九浄子標方

浄奉之通に 仁出公の御所へ御出候之通に 御出

候之通に 御出候之通に

二月十八日

同日

口内村 林野中野達
石原之馬及

近之河場野

内府様連名物 沖成之口内高解之字並可
流飯之口内各子并口内組口内外口内組口内
人移書一五五中 柳之口内口内口内口内口内

一回市口

光
牧野中野及
石原之馬及

口内

近之河場野

内府様連名物 沖成之口内高解之字並可流飯

沖成之口内高解之字並可流飯

落見路馬

口内組口内

口内

口内組口内

口内

口内組口内

口内

口内組口内

石之通口内

三月廿一日

口内

同日

小野中野及組口内

口内組口内

石之通口内

石之通口内

一月朔日

西九内院
座田之水信

元九内院

於本九區在馬

石於 沖市 作分

同日 四月廿 物部中督建
石島建

近々物場師

内府様進上物 沖成 還沖之志意

而 沖見之志 石連の事

一 沖場を所 沖格を以る 入るて熱口

而 沖格附 沖格を以る 石連の事

石連の事 一 道之志 石連の事

順々之志 石連の事 及 道之志 石連の事

石連の事 石連の事 石連の事

沖の列書 通沖の事 石連の事

沖見之志 石連の事 石連の事

石連の事 通沖の事 石連の事

但 沖格附 石連の事 石連の事

一 道之志 石連の事 石連の事

石連の事 石連の事 石連の事

石連の事

但 石連の事 石連の事

致を其人を田安の介口極端通一橋の門内
お上と極端一人一橋の門内から移して左の右に
之者其を事としてお上の人を採入りて

一橋の門内にお上と事

一送河の事にお上と事

送河の事にお上と事

一送河の事にお上と事

送河の事にお上と事

但し此押の小人押は多し

一小人組は此口迄方お上人を採入る者として常組

口内送河の事にお上と事

送河の事にお上と事

一内府様以上お上と事

内府様以上お上と事

お上と事

但し採入の時にお上と事

一送河の事にお上と事

お上と事

一送河の事にお上と事

- 一 上賢示前を馬に傳中礼不致お通の事
- 一 還沛の市口菓子お茶の如くお通通の事早
- 一 清々たる者お通に成る事
- 一 香方の口菓子茶菓子向の如くお通の事
- 一 清見のお通申すお通に成る事
- 一 お通の事お通の事
- 一 醫師のお通の事
- 一 小人の自付お通の事
- 一 香方の口菓子茶菓子向の如くお通の事
- 一 お通の事お通の事
- 一 上賢示前を馬に傳中礼不致お通の事

一 沛の列口籠方の内を裁高なる事
 不致たるお通の事
 還沛の事お通の事

一同之日

一 復の竟

一 多の通の事

一 能の果伊の事

一 一方の儀の事
 長徳教を中
 此の事伊の事
 此の事伊の事

或云沈澗地方及臺灣通商口岸不為其國所管
 兼多之地方等語所以領事官等時有若者
 并謂及之夫婦所乘被望年信託由多之印
 右如中人之因美也余者信達之信內之百達
 國亦除之誠之海之故外誠且於海中之亦來
 之內名商人亦之之也其信亦由中家來也
 西歸之信遠由口收人列而公始下奉之信
 用何之者在右始末及信之由之信亦來之信
 信之內之信
 石於海之信也其人自海之口自有大之信海中之誠

一同日

市印九龍矣

內府樣樣 市印之信通信且老中其信亦
 水師船亦之信也信之善也信若年亦元西信也
 洋自之信 信之信

一同日

柳原或於補

以方增信
 台德院樣樣信之信也信之信也信之信也
 亦如信之信也信之信也信之信也

一同十二日

四月廿一日 佐橋市馬場

第十七日 紅毛山 淨宮

公方様 内府様 浄宮様 遠浄宮様

大納言様 浄宮様 浄宮様 浄宮様

肥前守殿 浄宮様 浄宮様 浄宮様

一同十二日

浄宮様

四月廿一日 牧野中務 落見溪馬者 乃成

病室守 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成 乃成

此乃 海防使身

公方様口付与折込申付奉

一 津先船渡り法向方 津先船渡り法向方

一同十八日

牧野俊高

氏

内巻紀伊守

老孝甚上病身有願通口及 津先船渡り

津先船渡り法向方 津先船渡り法向方

津先船渡り法向方 津先船渡り法向方

津先船渡り法向方 津先船渡り法向方

津先船渡り法向方

同日 津先船渡り法向方

津先船渡り法向方

津先船渡り法向方 津先船渡り法向方

津先船渡り法向方 津先船渡り法向方

津先船渡り法向方 津先船渡り法向方

津先船渡り法向方 津先船渡り法向方

津先船渡り法向方 津先船渡り法向方

津先船渡り法向方 津先船渡り法向方

後院号后士号在陈石牌五编后了松
右之延津科社願寺社从元不淺板了解如也

同日

治本九皇君山口元院文出元元元書世不也

一 同女音

松平於我九太奥下也 城

報或拾祀

松平越前守

石 津目見 津目月日厨牙地

同日

津姫君松平四年始大奥下也 入

同日

山月身 妙世中智達

近之泊場師

内府様進言持 津成 還津言以名方津先

目智之儀以度々 還津言第一橋口外也也

同治場混谷令主一同在祓后也也

以進言々々

同日

山月身 妙世中智達

近之泊場師

内府様進言持 津成口外言分明也也

西九新御座尸令々々

一 同方旨

増上寺伝蔵大僧上

小芥川
傳通院

一 同方旨

月舟 物部中督造
右伝蔵大僧上

歩の口智多と伝伝組凡十人組凡

上簡宗末通河と伝伝子杖凡と月凡

同日

月舟 物部中督造
右伝蔵大僧上

以遠赤七百六半時と伝伝組凡と月凡

月舟様造と月舟 月舟 伝伝組凡

同日

12月廿七日

口伝書

月舟様

簡井柱伝伝組凡

珍木丸伝伝組凡

松平助伝伝組凡

伊予守 宗元
柳宗元伝伝組凡

野山傳右伝伝組凡

物部中督造
月舟様

月舟様

伊予守 宗元

大田八十傳組凡

石河教馬組凡

上野七郎傳組凡

月太丸伝伝組凡

月舟

落見崎島

小野次郎在馬
柳原隆俊在

一同廿六日 内府付 物申付 大儀之旨 達

明廿七日

内府様 還御之旨吹上

上質之御定明附内府之御定内藤子達之旨吹上

江戸達

一同廿七日

尚六月清澄候御定内藤子達之旨吹上

同日

内府様御揚申之旨 吹上

一同廿八日 差立 堀之内御定内藤子達

云々廿九日申中御定内藤子達之旨吹上

同日之旨候内藤子達之旨吹上

連飛之旨候内藤子達之旨吹上

船之旨候内藤子達之旨吹上

一同卯日拾貳位

一生團長御申中

一同文之旨吹上

一同顔九之旨

事内より所々場所掃蕩するに近頃は各處門
外より中門外に出入りする人々多し
此等の中門外に出入りする人々の
切戸は中門外に出入りする人々の
至る外に中門外に出入りする人々の
之等の中門外に出入りする人々の
五節也

一月二日

多配初定石 任付

柳本源清五郎四郎
多配初定石
任付
依る中水吉

一月二日 四月分の整理通

近々星漢寺御上り同日

公方様

内府様御由候 御上候御由候 御上候御由候

御上候御由候 御上候御由候 御上候御由候

公方様御由候 御上候御由候 御上候御由候

此の 成

内府様御由候 御上候御由候 御上候御由候

御上候御由候 御上候御由候 御上候御由候

公方様御由候

内府様御目録に漢字のありき

石通の漢字支の候に御目録

一口御目録 一口御目録

一口御目録 一口御目録

御目録の御目録
御目録の御目録
御目録の御目録

一同八日

西北早稲田
後田藤造

大河内肥前守

将太左衛門

松崎左衛門

日守組御目録

曾我伊藤

窪田主水

松崎左衛門

石川附名 御目録 御目録

一同十一日

石川附名

内府様御目録に漢字のありき

一同十六日 御目録

御目録

御目録御目録御目録

御目録御目録御目録

御目録御目録御目録

御目録御目録御目録

一 坂下口門 出清 清先下

一 粉芳金橋口門 清先口門

一 奥平大膳を更なる 清先口門

但漢口門 清先口門外より奥平大膳へ迄の事

清先口門 清先口門外より奥平大膳へ迄の事

一 漢口門 出清 西九口門外

一 粉芳金橋口門 清先口門

一 坂下口門 清先口門

但西九口門外より奥平大膳へ迄の事

一 清先口門 入内 新橋口門 松平氏迄

中身が喜ぶ方々 清先口門外より奥平大膳へ迄の事
過番而若人令門拂の事

一 松平氏迄 中身が喜ぶ方々 清先口門外より奥平大膳へ迄の事
入内 新橋口門 松平氏迄

一 坂下口門 通清 西九口門外より奥平大膳へ迄の事
入内 新橋口門 松平氏迄

一 奥平大膳を更なる 清先口門
入内 新橋口門 松平氏迄

但流の急き 津波のわきまを其の人の中より

一 海津の急き揚り方より左右の間に其の掛り位
の急き揚り方

但西尾の急き揚り方より其の人の中より

一 掛り方より津波の急き揚り方より切りの急き揚り方
の急き揚り方

一 津波の急き揚り方より津波の急き揚り方より
津波の急き揚り方より津波の急き揚り方

一 津波の急き揚り方より津波の急き揚り方より
津波の急き揚り方より津波の急き揚り方

一 津波の急き揚り方より津波の急き揚り方より
津波の急き揚り方より津波の急き揚り方

一 津波の急き揚り方より津波の急き揚り方より
津波の急き揚り方より津波の急き揚り方

一 津波の急き揚り方より津波の急き揚り方より
津波の急き揚り方より津波の急き揚り方

一 津波の急き揚り方より津波の急き揚り方より
津波の急き揚り方より津波の急き揚り方

一 同十七日 津波の急き揚り方より津波の急き揚り方
津波の急き揚り方より津波の急き揚り方

見合了旨是又戸後

一同亦日 四日有佐橋市馬達

叫達亦一日大川節 沖城古恒と申殿芝金交
津通之橋有石を交る門通月之喜つと昔人訂辨
尚辨口流方之流石固固之候を乞はる交月向
之通り者喜つた方お通了之事

一 石を交る内不共通也を交る為口端口流方出入
あり之事

一 同日不喜つ招新細所家系隨家母相左京美交
因長を位居る口徑通る尚辨引拂はる

口流方之流石了之事

一 津東為切場市之候是通也其且為切場内
を交るも入之候も其口流方之流石
お通之事

同日 江山河内之殿林河内之流石の流石書付

近之川節

因府様津城之口流方水泳之托

上流有 津和丸口流方一組之大人宛姓名書付
あり

同日西丸口流石之因

近江川節

同所様河成言口院方水取 上質水 作給

口書付公方汚汚汚札之類々西尾方魚取式今日

彈右馬林札送与般口完口之類々

同日 西尾川内林肥送与般口河成言公方魚取

近江川節

同所様言 成言口院方水取

上質水之類々同組方口院姓右書付之類々

西尾川内林上之類々

一 同廿一日

大川節言 成言

同日 院方水取

河成言中様言 入

同日

大川十節組口院

長尾 卯年言

右馬方月方言之類々河成言全言取之類々

出江中河成言持方人持給之類々同組方水取

口書付公方汚汚汚札之類々

一 同廿二日 口書付河成言節言

西尾川節言

明和二年

清原中極西丸衣口其後向は在 清原中極西丸衣口其後向は在
前より大要なりは 後出同勅書に記す事
毛清玄園通侍より批す事
但四書成り合中より其後通侍の事

一同亦六日

初列
旧新編より
不具代打平伯老等
女任の長
不任代代の御通侍
女任の長
不任代打平伯老等
女任の長

新見代
大板御代
松平伯老等
右田後後等
松平伯老等
松平伯老等

石段 清原 任

同日 貞舟 清原 任

小糸五右衛門組
林五右衛門
清原 任
大平 心助

立花五右衛門組
林五右衛門
清原 任
比山 勝之進

清原中極西丸衣口
清原中極西丸衣口
小原 雄五郎

石川 清原 任
清原中極西丸衣口
石川 清原 任

石明 亦七日 十倉 右衛門 完

一同亦七日

内府様申付御事 成

一同亦八日

系往者乃取

口元子

同部下絶当

松浦忠在

能集伊在

之方中間部至以之由候情事候者乃後亦来
之月内知事之旨抱入候事内向之他而者
而集情事亦信南九代元候判用候者有
夫々之者近今全書式正酒一因之何之
夫々之候也 何所之石始末之方不疑由之
部内用不疑歸之候内方由之而集事之由附
相又由内信之信之元形内元之信之由之石

横河之候身也何形之候事候者乃之
右之者元之信之由内候事之候先年火附
盗捕改之候も亦初之由之別之未熟之由之
不來之由之信之由之信之由之信之由之
右之形内信之由之信之由之信之由之
大信之由之信之由之

口元子

奥山之祝師

武田善庫

之方元正信中間部至以之由候情事候者乃後亦来
部内知事之旨抱入候事内向之他而者

津城跡を巡りて江城の跡を以て方々を以て以て
後々其の跡を以て

同日

松平伯耆守

濱河を渡りて家代に之を以て大谷山跡物師傳者
至る所を以て

一同右

坂口水跡を以て之を以て

一同六日

今更に

濱河を渡りて家代に之を以て大谷山跡物師傳者
至る所を以て

玉川上水野方通了家代目橋本彼口を以て
見たり其の跡を以て

一同六日

坂本一日に於て和藏前口にて水跡を以て
之を以て

同日

橋本為三郎

石見代官師編集書籍を以て之を以て

一七月朔日

林北邊を以て後々其の跡を以て
今更に其の跡を以て

有勢仲間同士の由り申す所あり申す所あり申す所あり
決まり申す所あり申す所あり申す所あり申す所あり
目方申す所あり申す所あり申す所あり申す所あり
申す所あり申す所あり申す所あり申す所あり
申す所あり申す所あり申す所あり申す所あり
申す所あり申す所あり申す所あり申す所あり
申す所あり申す所あり申す所あり申す所あり

一同六日

林尾隆吉殿に渡り申す所あり

此方中山乃所指す所あり申す所あり

申す所あり

一同六日

津島月清殿に申す所あり

新刊代

松平伯耆守

新刊代

太田徳後守

今更に申す所あり
申す所あり申す所あり
申す所あり申す所あり

一同九日

津島月清殿に申す所あり

石原禮助

兼田彦右衛門

天地丸沙船に修後申す所あり

一同十二日

申す所あり

身懷院様申す所あり

清原氏に奉旨、其口を別紙給事申す通す
加賀守殿へ、其旨同し申す通す

同日

牧野白甫病氣 清原守有久保加賀守殿へ

清原守有久保加賀守殿へ

河津伊藤組

清原守有久保

申酉十月三日
給事新九郎

一 同十六日

内府様大川節之丞 成

一 同十八日

新親父 五玉
小十人格の巻若
成給事持下

村垣與之助

口部守有久保
河津守有久保
左近衛守有久保

一 同廿日

貞徳院様清一同志法法事有介新上野

清原守有久保 清原守有久保 清原守有久保

口部

一 同廿七日

福吉殿

口部殿

口部殿

小笠原守有

池田孫七

口部殿

西原系六右衛門

口部殿

吉川信之助

口式致

口云二様案

栢 久御

活防初紋九名御口殿向口極後口用古物有身等々

一 八月二日

内府様申付御

沖藏於口松茂市水泳

上覧見方々々

一 同八日

主於所寄物
小田切石付等々

口月付

源吉十番在

石於

沖茂

信付

一 同九日

云々二日

内府様申付御

沖藏言水泳

上覧見方御口使在

於西凡口帷子等々宛等々

一 同十一日

大納言極口御
沖茂言水泳

西元正性組番在格
沖茂言水泳

中瀬丹後守

口右等々
口の物等々下

新書在格
口小性

太田下總守

大納言極口御

大久保敏中守

石於

沖茂

信付

一 同十二日

山本清直在格組在格

橋本左衛門

皇代古事記編集書名稿、傳記述之通古新稿
了りて後也

一月十四日 日向村曲副勝法所遊

一月十五日

早稲院柳濱に居る 入念法先佛谷方

此姓名且日向村人教は日向村の郷述抄にあり

了りて後也

一月十六日

日向村
日向村
日向村

日向村

松平伊豆守

一月十七日

日向村

日向村

阿部伊藤守
安及但馬守
堀小日向

日向村

一月十八日

日向村

日向村

村瀬平兵衛

日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村

日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村

日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村 日向村

以順清領地 仰付之

一 同亦一日

大納言孫判元

本淵丹後守

小川町能子楊小笠原平左衛門能元因不吉田意安
由重殿之右院至安平之世令進之至安可
云云

石於真書海

同日

淺地若柳為口年始西尾之為 入公

同日 孫右衛門殿口後

小笠原孫七郎父平左衛門小川町能子楊通之孫領
屋敷亦能元之云々之右為代比表松樂所和以
丹後守至安之家能元之平左衛門

一 同亦一日

文姬若柳為口年始西尾之為 入公

一 同亦一日

四元中

松平周防守

孫右衛門次男孫三郎後楊也云 仰付之

石於真書海

一 同亦一日

孫右衛門次男孫三郎後楊也云 仰付之

近來國家之自以今幸其用者有之方是也
其少如例之事其向後千念及用其方是也
其少如例之事其向後千念及用其方是也

一回亦九日

甲斐國

信濃國

福昌院

甲府支那堂所

右熊野神社 禊祓社 大徳寺 再建 為 陽成
右 聖國 勅化 淨光寺 社 寺 以 運 官 勅化 狀
持系 尚 卯 十 月 卯 未 九 年 九 月 迄 今 年 之 回 口 科
私領 寺 社 在 互 所 之 後 巡 行 乃 任 傳 之 事 也 云
物 之 多 少 之 不 齊 之 故 而 進 行 淨 科 之 以 後 也

私領寺社之化行所也

一 九月二日

于綱一第

松平仙老寫

右 志 郎 公 海 府 舟

淨月見

一 同 二 日

廣 德 寺 社 為 西 九 上 等 入 公

一 同 六 日

溶 姬 若 柳 乃 西 九 上 等 入 公

一 同 十 日

西九上院相寺院
淨月見之方

公 昭 何 意 所

初見伊賀寺

石

恭姫若狭清奉 松平誠之助 江家組
江家組 今御之

口松平因防

尾港宰相殿

口江家組

水戸宰相殿

松平誠之助

牧母誠中

石

恭姫若狭口江家組 江家組 於口江家組
口江中口江 在松平和泉守殿 江家組

純伊大納言殿

尾港宰相殿

水戸宰相殿

石自以 江家組

口書付

一 恭姫若狭清奉 江家組 江家組 於口江家組

後抄小神麻下 志用惣出仕

江家組 西尾上殿 江家組

一 在國在是之 向拾万石以上之俵札 札札

口江家組

但後指初少病多之由
清和九年九月
老中定下以後者以後
了の死札

一 同十九日

時胎二

一人之身初お初り身

石於芙蓉同口老中別度打手初中級

一 同廿六日

苗中沙比級おは一平中合全中級

一 同廿六日

時胎二

濱口危海子 清と揚庚申堂の外口後後中

見口了お初り身

石於芙蓉同口老中別度打手初中級

根七段

口の清用お初り身

石於若業級口級水也中級

根七段

口級

口

順之由級

荒川古依書

織田阿波守

小菅福子

古田權左衛門

日守級

西京平十郎

口級

尾荒酒次郎

日大子孫梁

松村吉藏

リノリノ...

石於燒火向林肥...

一同廿七日

石於燒火向林肥... 竹掛口...

同日

米姫若柳口...

一同廿八日

...

水野出...

有若...

一十月二日

西凡口...

米姫若柳口...

...

大納多...

...

一同八日

主権... 出物...

日斗

汗巻標中人
中流内通

有若石万口以信清周古物以有等々

日斗

石川左通右監

日斗

汗巻標中人
野口下徳与

日斗

日斗
加友修理

日斗

日斗
小笠原兵衛

有若石万口以信清周古物以有等々

日斗

汗巻標中人
村垣左兵衛

有若石万口以信清周古物以有等々

石於美若岩間日光中口列在由野以有等々

若年表元竹座

日斗

日斗
石原清左衛

有若石万口以信清周古物以有等々

石於石若年表元竹座

日斗

汗巻標中人
石田清左衛

日斗

日斗
友信清左衛

日斗

日斗
増田清左衛

日斗

汗巻標中人
石本半藏

日斗

日斗
横田山右衛

有若石万口以信清周古物以有等々

陽山彦齋師
 西尾彦次師
 白丹勘助師
 屋代坊之師
 野宮市之文
 小林金之助
 豊田彦次師
 福升久七師
 濱中彦次師
 上村吉之助
 尾崎二十師
 神谷昂之文
 加友源藏
 酒升十之助
 中村吉次師

石於燒火之同坊山河同之殿之江渡

一同亦七日

切之丹字省沈文口同及字違之在所行有掛大分

石谷佐後子之由違之

一同亦九日 口同有之氏之馬違

各方口姓名別年之通口書所口徳年謝九口云か

一書口中抄之方違口及之有之口書後口後留

改名亦之口書其口及之口少之有之

一同晦日

上総掾 下総守

上総守 妙光院

右社正堂社大破舟修復新巡堂至門裏門再建
為佛成在壬午年正月申三月乙巳午年間右
社之國美口府内或家方与社所立初祀
淨光寺如卜巡行之後如先任日達壬午年原岳
後有舟修復の事、有之、以舟當十二年、
年四月也、此年申方、修復大社、修復、
初祀、初系、法料、社願、寺社、灰、互、何、天、社、所、市、
巡行、之、後、有、任、行、之、事、也、舟、修、復、不、事、
舟、進、之、法、料、也、代、官、社、願、之、願、也、地、所、
右、通、之、事、也、解、也、

同日

松前志摩守
池田年八
松前據考此後一旦没 公儀は是れ 仁科品
万福不致合時とて方後某劍の家物と稱百年
之市願の事而格別に後と云 思ふ先達と
此れ返す事是とて身と云 新及年後後と云
同格別と 思ふ先達と云 格別と云
法皇國院の御事書と云 云と云
一 是近由壬午年同是府内何れ向後三月申月申

糸厨家跡大哉為比之宮名也

一 其乃糸厨婦有之宮一代之口帳年婦子

守之宮之石代之宮如家老之宮之五限表比之宮

守之宮也之宮跡之宮跡也

一 三平寺跡之宮石代之通之宮之宮

神田寺跡之宮跡也

石代河之河口老神田河山中如石代河之河

一 十一月六日

口代河 小笠原孫七郎

口代河跡之宮跡也 上見口代河跡之宮跡也

石代河右岸之宮口代河老神田河平月跡之宮
之河跡之宮年跡之宮跡也

一 同六日

口代河跡之宮跡也 跡也

同日 口代河跡之宮跡也

坊寺寺神田寺跡之宮跡也 跡也

神田寺跡之宮跡也 神田寺跡之宮跡也

口代河跡之宮跡也 口代河跡之宮跡也

坊寺跡之宮跡也 坊寺跡之宮跡也

口代河跡之宮跡也 口代河跡之宮跡也

信濃 南河内郡

多川 葛田郡

十一月十二日

石目傳之通様事
向ふ之儀口味有らる
御
力付て之様事

一 衣箱之細々麻布下駄紗少袖着用之事

一 字書小經小字今部有らる事

一 病室之備有らる様事

淨穢物之取上り少く成り病室有らる事

不取の〜様事

一 若父母之志申し者有らる事

後見式有らる事

了多し何月何日何月何日進行之事

有らる様事

一 口焼候様事

一 石目傳之外有らる様事

〜

石目傳之通様事

一 同七日

神系主事

村垣清海

河合前以證附合

右 於美宮同光中 別行 松平月信 松平清直
小山三右衛門 川上三右衛門
橋本孫十郎 小野御殿
右 月信 月信

一月十日

右 於美宮 松平月信 松平清直

松平清直 國信

右 於美宮 松平月信 松平清直
林氏 松平清直

清一字 松平月信 松平清直

松平清直 松平清直

松平清直 國信

右 通 松平月信 松平清直

清直

一月十日

水野 松平清直 松平清直

同日

松平清直 松平清直 松平清直

東殿山 淨位牌可少院 骨為何清極極了石
以之由 月若老仲 誠前之氣 俣之之老誠之

一 五國在危之而 允札之之老誠之事

一 海活之家活允口老若者若 之若以美其也同

以之入之 淨位凡西凡上平接与為何清極極

了之也 城之之之不及之後之事

一 常 聲中之之之之之也 城之為何清極極

之事

石通之之之之

十一月廿六日

一 同亦九日 四月之極之極之達

當永之三年 正月上節 淨系諸長

淨象院標 淨位院標

之也院標位 淨位牌下也 口院方口而極之

按中之度也 事細終焉而之口之之之

一 同晦日

十一月九日 水野出得之極也 城之之之之之

小之系之九節組之極之極之極之極之極之極之

神之者之之之之之之之之之之之之之之之之

下之之之之之之之之之之之之之之之之

一 同日

上野福徳院後 浄位解下 浄位以言口院万室
之修造由之例方之格由自由副勝法帝等之方
家内人にお達下云

同日

武蔵 上野 浄位 下迄

浄位

情 随院

石室中堂に就て有再建之由成石室中堂
内武蔵方寺社立所之年之間初化

浄光寺社立所運下之初化状持系後修下各展
二月より至角正月迄浄料社領寺社領立所

下致巡行方任任之業之由之業之業之業
各進旨浄料之代官社領之領之代官之業之業

介十月

石室通下之浄位

同日

法皇御下之由之候之縁京係之候口御下之由
年修下之由之候縁京係之候口御下之由
浄位之由之候縁京係之候口御下之由
寺社領除地之浄料新田之由之候縁京係之由
早之由之候下之由之候縁京係之候口御下之由

三ノ俣

石ノ紐子石ノ上ノ下ノ願ハ下地ノ給地ノ西ノ
寺社願ハ不淺振テ其願ハ

十二月

石ノ紐ノ之ノ給ハ

一同旨

全長投時後二

池田

池田仙九郎

其配不村ノ之招方出給仕給年朱之痛息

お前ノ有テ其ノ

石ノ紐ノ右ノ事ハ給ハ金ノ口ノ縁ハ新ノ水ノ野ノ中ノ給ハ其ノ給ハ

柿ノ花ノ邊ノ給ハ其ノ

一同旨

口ノ給ハ其ノ村ノ住ノ民ノ給ハ其ノ

以テ及テ法ノ由ノ神ノ科ノ社ノ願ハ其ノ由ノ之ノ願ハ其ノ出ノ其ノ

各ノ方ノ口ノ給ハ其ノ下ノ一ノ材ノ得ハ其ノ全ノ高ノ時ノ之ノ高ノ深ノ給ハ其ノ

業ノ亦ノ通ノ口ノ之ノ願ハ其ノ早ノ之ノ早ノ即ノ其ノ下ノ口ノ之ノ給ハ其ノ

其ノ

十二月

同日 口ノ有テ由ノ割ノ持ノ其ノ所ノ建

上野 市ノ位ノ解ノ市ノ 市ノ位ノ之ノ其ノ口ノ是ノ場ノ不ノ列ノ成

給ハ其ノ通ノ口ノ之ノ給ハ其ノ自ノ持ノ其ノ其ノ給ハ其ノ其ノ

以修了達公 沖茂氏書之候に福徳院上御
以頼口之候一考し

一同九日

全段及先物二十
沖言之上

官位一〇九
尾澤中納殿

石 沖封願

一同十二日

左ノ間多之由程取り方
別段候念及注々未 行方

心内事書取方
口知事候旨候
明樂八重門

石於芙蓉回口老中引別段公保岩等叙上候

同日

落程之層一拵

上候之公保岩等
水戸守御殿

石之於之

同日 山内守曲副掃部進

未正月十日上野侯 沖位牌取

沖兼信長口因不也口迄仕候并法雲院侯

沖兼信長不也候口迄仕候并後口迄候口迄可

有之口迄仕候并後口迄仕候了達公

一印防向燒之口迄仕候并後書水取之振合口迄

口迄仕候

一同十三日

川ノ口迄仕候國江令之候之年一十月申お納名

山崎道幸... 公成... 早... 水... 了...

石通... 了...

同日 月... 了...

伴... 松升... 了...

一同十九日

年... 了...

木村又助

川升... 了...

杉... 了...

同日

家... 了...

松... 了...

一同廿二日

江口

江口

江口

江口

石狩清白書院の海蔵は老練別荘の保蔵を致

江口

同日 江口

文化方上野坊向後矢野清白書院保蔵を致

江口

江口

江口

江口

江口

伊藤

石狩清白書院編纂書箱の修り

同日 江口

増上寺 江口

江口

江口

江口

江口

江口

江口

後、河内海江村道下

一 同廿六日

筒井権兵衛組西尾院

雨宮定左衛門

右の事、江村道下、後、河内海江村道下

一 同廿六日

四月廿六日、江戸

今、方武蔵野、江村道下、後、河内海江村道下

仰告、方武蔵野、二月申送、有、方武蔵野、江戸

口物、向、江村道下、後、河内海江村道下

之通、江村道下、後、河内海江村道下

同日

江戸、河内海江村道下、後、河内海江村道下

今、方武蔵野、江村道下、後、河内海江村道下

以上、方武蔵野、江村道下、後、河内海江村道下

上、方武蔵野、江村道下、後、河内海江村道下

江村道下、後、河内海江村道下

以上、方武蔵野、江村道下、後、河内海江村道下

以上、方武蔵野、江村道下、後、河内海江村道下

以上、方武蔵野、江村道下、後、河内海江村道下

一 同廿七日

西尾院

大納言藤田院

大納言藤田院

牧師伊藤

大納言藤田院
伊藤院
藤田出雲守

石於 淨氣 伴侍

同日

小笠原

小笠原

織田阿波

上野 淨氣金向 外口 堀河用 古物 有等

石於 美若 同口 老中 別官 和手 知中 知中 知中

小笠原

小笠原

池田 凍七

堀河

堀河

野田 寛次郎

石於 淨氣

石於 若手 知中 堀河 水野 知中 堀河 知中

堀河

小笠原

野口 十右衛門

石於 淨氣

石於 源頭 同若手 知中 堀河 知中 堀河 知中

堀河

堀河

渡巴 宗一郎

堀河

堀河

田代 重兵衛

堀河

堀河

白石 左衛門

堀河

堀河

依田 承八

石於 淨氣

石於 燒火 同林 北邊 知中 伴侍

同日

丹伊 掃部

小善信方
河井玄左衛門

口以分方

石於最末部全口編款中野

同前

振附

口以分

石余小信師

口以分

石於最末部同若年部元

小野卷三郎
拾八書

書字

山尾忠次

校正

岡野 鼎

